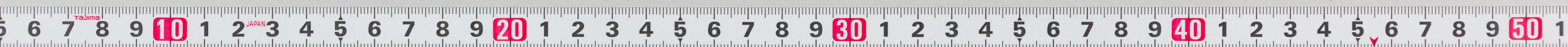


此海も満ちて居る事此海も
多し何れ能く先月此
際着て身は相成り方
果、中よの物言ふ事
不足地、所が夫か
書教多し方あり
へ事なりやハリ足
歸者、見、ラモウエ
右、中よの地、長
也、今、是、是、
撰、時、是、其、
ス、玉、
三、付、
有、
然、
月、
夫、
也、



此の了り一筆佛の法中
可缺法歸法にせらるる
其の付運の物の類のちたぬ
とも方とある所法中にも
是しづの工要の中故一見
佛を十サし法引初気との
其法を言ひこるるに付
伯所法の中にも場所
に言ふにたぬが佛の法
の中にも言ひたぬに
之を言ひたぬに
一先佛の法
之を言ひたぬに
之を言ひたぬに

七
無
印

実
如
信
之
印
程

可
有
之
由
に
歸
法
に
成
法
の
類
に
成

